

就職希望者今後の対応について



就職試験の結果が徐々に伝えられていますが、残念ながら一次試験が希望通りにいかなかった生徒も少なくありません。そうした皆さんの今後の対応について少し述べておきましょう。まず当面以下の3つの選択が考えられます。

今後の求人待っ

他地区の(県外も含めて)企業を探す

進学に切り替える

1番目は、しばらくは他の企業からの求人が出るのを待つということです。学校としても何とか次の企業の開拓に努力しますが、どこまで求人が出てくるかは未知数です。しかし一般的には待つより仕方がないかもしれません。しかし、これはという求人が出次第早めに応募してください。係としては希望が出たところから順次企業にお願いしていきます。これからは応募期限がありません。他校の生徒もどんどん希望を出してきますので、ゆっくりしていると次々にふさがってしまいます。いつまでも待ち続けることは出来ません。またあまり選り好みをしていると、卒業まで決まらない可能性もあります。

2番目の方法は県内の他地区もしくは県外の求人を模索してみるというものです。県内他地区も決して潤沢状態ではありませんが、空きのあるところがある可能性もあります。これも早め早めに探し、進路に申し出れば順次各企業と連絡を取ります。場合によれば県外への応募も考える必要があるかもしれません。ただし、二次の応募ですから一次で埋まっているところが多いことを覚悟してください。

3番目は、なかなか簡単に踏み切れないかもしれませんが、経済的に許されるならば進学に切り替えるのも一つの方法です。



やっぱり学力が問われています

今回の就職試験で不合格になった人のことを企業から聞くと、その多くが面接試験での不合格よりも、一般常識や適性検査中の基礎学力で引っかかっているようです。ここ最近面接重視といわれ、多少学力面で不足していても、面接の出来不出来で合否が決まっている部分もありましたが、今年のように競争が激しい年は、企業でも最後の決め手は学力の差となっているようです。3年生の皆さんは今更言われても困ると思われるかもしれませんが、それは日頃の積み重ねの問題です。これから2次試験をひかえている人は、今回の失敗を少しでも生かすよう、就職試験向け一般常識問題集等を少しでも解いておくにこしたことはないと思います。特に簡単な数学の計算力や、漢字の書き取り等が問われているようです。

進学希望者公的奨学金申込は進学後に

日本学生機構の奨学金の申込は5月頃に終わっています。希望者は入学後5月頃までに各進学先で申し込んでください。新聞奨学生等はこれからです。各学校毎の奨学金は各自で調べてください。